

季節の変わり目、皆様、お身体を大切に。

救援プロジェクト着々・・・

CODEの活動の柱である救援プロジェクトですが、現在はアフガニスタン救援、中国新疆ウイグル地震救援、トルコピンギョル地震救援、アルジェリア地震救援と4つプロジェクトを展開しています。それぞれの詳細については、後で詳しくご紹介しますが、それぞれ皆様から支援金を募っておりますが、特色ある形でプロジェクトを展開しています。

アフガニスタン救援プロジェクトでは、シューラ（村の評議会）をパートナーとして、全国各地の方々からぶどうオーナーを募り、シャモリ平原の300家族を対象にブドウ畑の再生と協同組合の結成を目指しています。この「ぶどうプロジェクト」では、市民の方からイラストの提供を受け、オーナーとなっていた方へ会員証としてお手元にお届けしております。また、カブル市内に、女性センターの建設を支援しています。そこでは、識字、洋裁、平和学などの様々なコースが行われています。

中国新疆ウイグル地震救援プロジェクトでは、神戸華僑総会と連携して募金活動を行い、巴楚(パチュ)県にある全壊した吾斯塘博依(ウスタンボイ)小学校の再建支援を行っています。

トルコピンギョル地震救援では、日本の子どもたちから99年に発生したトルコマルマラ地震被災地のデリンジェ市の子ども達へ、そしてピンギョルの子ども達との連携を支援していきたいと考えています。デリンジェ市の子どもたちと交流のある神戸市北区の子どもたちから何か出来ないかと相談を受けています。

アルジェリア地震救援プロジェクトでは、95年阪神淡路大震災直後にアルジェリア政府よりテントを支援していただいた経緯から「HYOGO～アルジェリアお返しテント募金実行委員会」実行委員長：黒田裕子(阪神高齢者・障害者支援ネット

ワーク)を発足し、当センターが事務局となっております。その中で、兵庫県、神戸市、JICA国際協力事業団兵庫国際センターなどとの協力の下、募金活動を展開しました。また、海外研究員のクワッテモックさん(メキシコのNGO代表)の現地派遣(6/14～20日間)を行いました。

また、CODEのHPを見て下さったフランス在住の日本人からお問い合わせを頂き、現地の情報を収集することができました。お返しテント募金にご協力いただいた中には、通信欄に「今度は私たちが助けるばんです」とメッセージを添えてくれた方もいました。

CODEが目指している「市民による支え合いの文化」が基盤となり、現地の人々とのパートナーシップ、被災地から被災地への連携が形になりつつあります。これらの海外の災害救援活動を通して、CODEはみなさまと共に「自分の暮らし」を考えていきたいとおもっております。

今後ともご協力をよろしくお願い申し上げます。



(文責：事務局仲江川徹)

アフガニスタン現地視察報告

6/8～6/19まで、アフガニスタンを訪れました。今回はいよいよ動き始めたぶどうプロジェクトの視察と、他のプロジェクトの話し合い、そして家屋建設耐震構造ワークショップへ参加が主な目的でした。

ぶどうプロジェクト

バンコク、インドを経てアフガニスタンへ入り、2日目。いよいよ今回のぶどうプロジェクト地であるシャモリ平原(首都カブールから北部へ25キロ)へと、現地スタッフと共に入りました。プロジェクトはシャモリ平原の中にあるミールパチャコット地域にある4つの村を対象としています。この地域から選ばれた300家族を最初の支援者として、まず、私たちは「ぶどう基金」を設立。この基金は、日本の「ぶどうの木オーナー」からの支援金を出資金としています。そして、この「ぶどう基金」から選ばれた300家族に対して貸し付けが始まりました。6/30現在で「ぶどうの木オーナー」は170人になりました。



育ち始めたぶどうの木

4つの村の代表者からなるシューラといわれる現地の評議会の方々

と話し合いを行い、ぶどうプロジェクトを責任を持つという契約を行いました。1．今回選ばれた300家族はシューラの人々が責任を持って決めた。2．借りたお金は必ずぶどう畑の再生のために使う。3．返金は原則1年後とし、更に継続が必要な場合はシューラが協議して決定する。4．1年後、収穫で現金を得て、ぶどう基金に5%の利息をつけて返金する、ということが決められました。

その後、実際にぶどう畑を見てきました。タリバン時代に焼き尽くされたぶどうの木には、新たな枝が芽吹いていました。9月～11月に迎える収穫期に向けて小さなぶどうの実を付けている木もありました。そのような木からは5キロの収穫が期待できるそうで、3、4年後には、40～50キロのぶどう



ぶどうの世話をする村の女性

が実るようになるということです。しかし、どこへ行っても水の問題があり、20家族でお金を集めて、井戸掘りに挑戦している家族もありました。

6/12から、最初の支援者となる300家族対

しての貸し付けがスタートしました。300家族の中には、未亡人家族が25家族、障害者家族が15家族、最貧困家族が14家族含まれています。家族によって金額も用途も違い、ある家族は、水に。ある家族は肥料や、労働者のために使うなど様々です。ある人は「これでぶどうに水をやり、パザールで売れば、借りたお金は半年で返せる」と言う、頼もしい言葉も

ありました。1年後、基金へ返されたお金は、他の家族への貸し付けや、地域の問題解決のためなどへ使われる予定です。

<300家族の中の一人の未亡人にお話をお聞きしました>

質 問：名前はなんといいいますか？

未亡人：ミルザグルです。

質 問：いつシャモリ平原から避難し、いつ帰ってききましたか？

未亡人：タリバン時代にシャモリを去り、2002年始めに帰還しました。

質 問：夫であった方はいつ亡くなったのですか？

未亡人：タリバンとの戦争で、亡くなりました。車に乗っている時に、タリバンのロケットが車に当たったのです。今は娘2人と暮らしています。

質 問：借りたお金はどのように使いますか？

未亡人：200本のぶどうがありますので、それらに水をやるために使いたいと思っています。

質 問：夢はなんですか？

未亡人：以前のように普通に暮らすことです。

女性センター支援プロジェクト

CODEでは、RBRO(ラビア・パルヒ・リハビリテーション・オーガニゼーション)という女性センターを支援していくプロジェクトがあります。

今回の視察で、女性センターの代表、先生、事務局の方と話し合いました。現在女性センターは、裁縫教室、保健コース、英語コース、識字コース、平和学コースなどを行っています。現在は裁縫教室などで、冬物のジャンパーを作り、それらをパザールで売り、そこから教師などへの給料が支払われています。2人の若い女性教師の方とお話をする中で、彼女たち自身がもともと戦争から逃れてカブールに出てきた難民だったこと。そして女性センターへ行き、学び、教師になったということでした。

また、興味深いコースとして平和学というものがありました。教師をされている方はタリバンに夫、息子、全ての身内を殺されてしまったそうです。しかし「女性が平和について学ぶことで、夕食時などに話をする事が出来る。そこから平和が生まれる」という想いで、授業を行っているそうです。

23年間紛争が続いたアフガニスタンで、女性たちが家庭の中から平和を取り戻そうとしていることに、希望と力強さを感じました。

学校建設プロジェクト

2002年3月に発生したナハリン地区の地震支援として、現地のNGO「Shelter for Life(以下SFL)」をパートナーとし、ボルカ地方に学校建設が計画されています。その地域では、雨が続き、学校建設に着工できる状態ではありませんでした。当初の予定よりは遅れたものの、この夏には着工し、冬が来る前には完成するだろうということでした。

現地の状況が入り次第、お伝えてしていきます。

耐震技術習得ワークショップ

今回の視察の最終日には、「家屋の耐震性向上のための建築工法ワークショップ」が国連地域開発センター(UNCRD)、アフガニスタン地域復興家屋省(MUDH)主催、SFL、CODE共催によって開催されました。カブール大学で行われた3日間のワークショップでは、耐震構造についての講演や、シェークテーブルテストが行われました。このワークショップにはアフガ

ニスタンの大臣や、ナハリンの地区の大工さんなどが参加しました。

シェークテーブルテストには、経験のあるネパールのNGOが事前に入り、アフガニスタンの大工さんを指導し、家のミニチュアを2つ作りました。その内の一つは耐震補強がされたもので、もう一つには補強がされておらず、現在アフガニスタンで多く見られる家屋です。それらを台の上で揺らし、地震が起こった状態を作り出します。そこで、一目瞭然の結果を目の当たりにすることで、補強の大切さを知ってもらおうとするものでした。

このワークショップが、地震の多いアフガニスタンに耐震構造の普及に役立てばと思います。



実験前

実験後

今回のアフガニスタン視察は、ぶどうプロジェクトが動き出したとを確認できるものでした。ぶどうの木は、大きくなっており、人々は収穫に向けての準備を始めています。女性センターもこれからの活躍に期待がもてるものでした。できるだけ皆様に現地の状況をこれからもお伝えしてきます。ご期待ください。

アフガニスタン支援者～6/16まで 敬称略・順不同
熊原,ユーコン商事(株)(兵庫県)

アルジェリア地震救援プロジェクト

5/24に発生したアルジェリア地震では、死者2,200人を超える大きな被害となっています。CODEでは支援活動の一環として、被災地へテントを贈る募金活動を行っています。

この活動には多くのご協力を得ることが出来ました。兵庫県では、県庁舎内及び10県民局に募金箱の設置して頂きました。また神戸市、(財)神戸国際協力交流センター等のご協力から、国際協力事業団(JICA)兵庫国際センターと共に国際緊急援助隊写真パネル展及び街頭募金活動を行い、3日間で約25万円と、多くのご協力が集まりました。兵庫県立舞子高校では文化祭で生徒会が中心となり募金活動をして集まったお金約4万円を7/4生徒会を代表し2名の生徒がCODE事務局まで募金を届けてくれました。ありがとうございました。

現在、CODEでは海外研究員である、メキシコのNGOクワテモックさんを6/14から現地へ派遣し、情報収集・調査活動を行っています。詳細なレポートにつきましては、次報ご報告いたします。

アルジェリア支援者～6/16まで 敬称略・順不同
山本,野口,カトリック枚丘教会,井田助産院(以上大阪府),庄野(埼玉県),金田,MB COMPANY(以上京都府),和久,前川,中上,小林,リサイクルスペースくるりん,小林,村田,笠置,高倉台校区防災福祉コミュニティ(以上兵庫県),鶴飼(静岡県),下村(東京都)

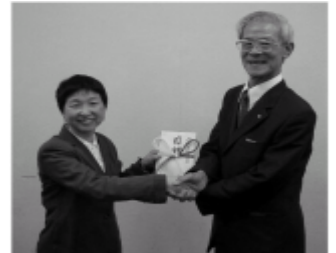
アルジェリアテント支援者～6/16まで 敬称略・順不同
藤本,植田,加古川教会,宝珠山,安達,横田,魚留,加藤,勝部,松本,コープこう

べ災害緊急支援基金運営委員会,カトリック日生中央教会,カトリック佐用教会,原,洲本カトリック教会,前田,高橋,日本キリスト教団龍野教会,西,光葉(以上兵庫県),上田(大阪府),塚原,小池(以上群馬県),竹内(京都府),熊取カトリック教会,岬カトリック教会(以上大阪府),カトリック橋本教会(和歌山県)

中国新疆ウイグル地震救援プロジェクト

2/24発生した新疆ウイグル地震について、CODEでは神戸華僑総会と連携して、倒壊した吾斯塘博依(ウスタンボイ)小学校の再建支援を行っています。コープこうべでは、全店舗(155店舗)での募金活動が行われ、96万6,689円の募金が寄せられました。

6/17、募金贈呈式が行われ、コープこうべ福祉担当理事の山岸ひろ子さんより神戸華僑総会名誉会長でもある林同春CODE顧問へ募金の目録が贈られました。



目録の贈呈

現在被災地では、復興・再建活動も進み、支援先である吾斯塘博依(ウスタンボイ)小学校でも、学校建設が始まりました。

中国新疆ウイグル地震支援者～6/16まで 敬称略・順不同
鯉沼(岡山県),阿部,愛の光500(以上神奈川県),リサイクルスペースくるりん,圓城,木馬の会,笠置(以上兵庫県)

これまでの活動記録6/5～7/5

- 6/ 6 天理大学地域文化研究センターへ講師派遣
- 6/10 兵庫県生活復興のためのNPO支援活動事業プレセッション
- 6/12 三宮駅、地下街にてアルジェリア地震救援募金活動(～14日)
- 6/13 大阪YWCA専門学校研修受入
県立舞子高校文化祭にてアルジェリア地震救援募金活動開催(～14日)
- 6/17 運営委員会/コープこうべ中国ウイグル地震支援募金贈呈式
- 6/18 第3回NGOことはじめセミナー開催
- 6/26 アフガニスタン報告会(オンライン)
- 7/ 1 アフガニスタン報告会(神戸YWCA・アフターナイ)
第4回NGOことはじめセミナー開催

ありがとうございます。

会員・寄付者ご芳名(以下順不同・敬称略)

一般寄付<6/5～6/30まで>

小村隆史(静岡県),三島宣彦,市原崇行(以上東京都),池島佳子,神視保育園(以上兵庫県)

新規会員<6/5～6/30まで>

- ・正会員: 草地とし子,松本誠,鶴飼卓,西正興,青田良介(以上兵庫県)
- ・賛助会員: 石川文江(神奈川県),加納敏一(滋賀県),七里紘子(大阪府),樋上聡(京都府),笠置りか,岡崎博子(以上兵庫県)

編集・発行 CODE海外災害援助市民センター
〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10
TEL: 078-578-7744 FAX: 078-576-3693
e-mail info@code-jp.org URL <http://www.code-jp.org/>
郵便振替: 00930-0-330579